

榎ノ木

第拾参号

平成28年10月10日発行
青壮年部女性部広報
題字：大内翠峰

青壮年部・女性部

鶺鴒橋新会長就任

就任のあいさつ

花園会・青壮年部・女性部会長

鶺鴒橋初雄



青壮年部・女性部が発足して7年目を迎えた総会の役員改選において、会長に選任頂き、事の重大さを痛感しているところです。

発足時から広報部に席をおき、広報「榎ノ木」の取材・発行を通して、活動の一端に携わり、数々の体験をさせて頂きました。これを基礎として、会員、役員、皆様方の御協力を頂き、青壮年部・女性部の発展に心機一転取り組んでいく考えております。

本年6月8日に副住職梅澤竜潭師の入寺式が執り行われました。青壮年部・女性部会員の皆様と共に檀信徒として心より喜び申し上げます。

これからは御住職・副住職の御指導を頂き、青壮年部・女性部の年間行事であります女性部の移動研修会、広報誌の発行、写経会、法話会等を実施することが出来ます事、誇らしく思います。

当山で執り行われます降誕会、成道会、涅槃会、施餓鬼会には、会員皆様一人でも多くの方々にご参加頂き、数々の仏教の教えを学び、心の支えとして、人生の道しるべに出来ますよう、お互いに学んでいければと思います。今後の御指導と御協力をお願い致します。就任の挨拶とさせて頂きます。

禪興寺住職 梅澤徹玄

当山は鎌倉時代末期に「長福寺」として松島瑞巖寺の禅宗初代住職法身性西禅師により創建。その後焼失、荒廃の時代が続きました。江戸時代初めに吉田生まれの大領義猷和尚が、伊達家四代綱村公の推挙により瑞巖寺百二世の住職に就任。師は郷里吉田の地に、自らの袈裟、法衣等売り払い、一六七〇年方丈、庫裏、厨房を新設復興し、名を「禪興寺」と改め、中興開山（再建初代住職）となりました。この法縁に連なる県内全十四ヶ寺の和尚様方、当山総代が一同に会し、師の遺徳を偲び、法要を営み、裏山にある開山塔前にて諷経致しました。師は齢五十にして、妙心寺の招請を受け、霊元天皇に拝謁し、紫衣を賜り、亡き後朝廷より「勅諭本光瑞如禅師」と諡（おくりな）されました。

大領開山忌に集う



当山、総代一同でパチリ



裏山中腹の開山堂に読経が響く！



副住職入寺式 晴れやかに

網代笠にワラジ姿も板に付き、京都大本山の修行から帰ってきました。

禪興寺副住職 梅澤 竜潭

さわやかな初夏の日差しに包まれた6月8日。沢山の方々に見守られ、幼い頃、よじ登って遊んでは怒られていた山門をくぐりました。

生まれ育った清浄山禪興寺の副住職として、正式に私を迎えてくださる入寺式が挙行されました。

昨年春、本山の修行道場から戻ってきて以来、多くの方々に支えられ、この日を無事迎えられました事をあらためて御礼申し上げます。

当日は瑞巖寺起雲軒老大師をはじめ、大勢の御尊宿方をお迎えし、緊張と高揚で身が震えました。

親族、総代の方々、またこの場には参列できなかった両祖父、様々な想いが胸に宿りました。

本当に半端者ではありませんが、この大勢の御恩に報いる為に、より精進を重ね、お寺を守っていく事をお誓いいたします。

最後に入寺式を終えて御勇退された、伊藤彌夫元総代長にこの場をお借りして感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



やっぱり故郷はいいなあ～



老師様のお言葉に耳を澄ます副住職

降誕会・子育て水子地藏祭

妙心寺派定期巡教師法話会

大切な心を言葉に

沢渡 早坂妙子



ユーモアあふれるお話しの背景には豊かな人生体験が



新緑の境内で参加者に語りかける住職

5月19日新緑の風爽やかな季節となりました。

水子地藏祭りの絵馬に託された子や孫への思いを、奉納し、法要を行い、御詠歌の音が響き渡り、なんとも、心新たに考えさせられる日となりました。

また、5年目を迎えた東日本大震災法要。そして、大本山妙心寺派定期巡教師小川太喜^{たいき}巡教師による、法話を頂きました。

巡教師様が体験した阪神淡路大震災のお話を頂きました。地震で揺れる最中に「もう死くなー」「しまったー。お金を使っておけばよかった」と思ったそうです。そして、がむしゃらに仏に祈ったとのこと。

また、自然の恩、大自然の恵で生かされている事も話されました。私は、忙しく体調も優れず、つつい家族にあたってしまう自分。愛犬の散歩中、ふっと、私は何をやっているのだろう？家族がいなければ、働くことも、出掛ける事も、できないのに。感謝をしなければいけないだと、頭の中に出てきます。そうすると、すと、落ち着いて楽な気持ちになります。

また、現代の私たちに必要なこととして、「ありがとう」「さようなら」「おかげさま」など、言葉に出すことが、いかに大切な、何度も話されました。簡単な言葉なのに、普段、私たちは使わないで、過ごしているのですね。

近年は、東日本大震災、昨年の洪水災害、熊本地震と大災害が立て続いています。と同時に私たちは、自然の恩、大自然の恵に生かされていることを忘れてはいけません。時には、無になって、呼吸してみましよう。

大本山妙心寺団体参拝と 京都新緑の旅に参加して



大徳寺の方丈

反町下 平 愛子

6月3日22名の参加のもと、早朝5時45分集合、副総代長高橋寛氏の団長にて、二泊三日の本山団体参拝旅行に出發致しました。



歴史に名高い大徳寺山門・千利休像を特別拝観！



仏像に囲まれた山門を特別拝観、全員で読経

好天にも恵まれ、無事京都大本山妙心寺に到着し、まず花園会館で昼食を。開山堂を拝観し、法堂にて持参した写経の納経と御先祖様の卒塔婆を御供養していただきました。又、妙心寺派管長の嶺興嶽師による御法話を拝聴致しました。

次に一休禅師、千利休に由縁のある名刹禅寺の臨済宗大本山大徳寺を特別拝観。その後、真言宗御室派総本山仁和寺御室会館に到着。妙心寺御用達の「阿じろ」にて精進料理の夕食を頂きました。

翌朝は、5時30分に国宝の金堂に

集合して朝課に参列。御法話を拝聴し、冷気肌に心地よく、清々しく境内を散策後、朝食を頂き会館を出發しました。一路、名神高速道を走り、兵庫県宝塚大劇場にて花組公演「ミー&マイガール」を観劇しました。

大殿堂の舞台に立つまでの最高の人間形成への努力の賜と、改めてタカラジェンヌの素晴らしい姿に感動し、その余韻に浸り劇場を後にしました。京都清水二年坂を散策、買い物後に川の流れる「忍庵北店」にて夕食を頂き二日目の行程も無事終了。

三日目は、歌で知られる大原三千院を参拝し昼食「京美茶屋」にて湯葉づくしの料理を美味しく味わいました。

天台宗寺門派の岩倉門跡「実相院」を参拝し、秋の「床もみじ」も有名な、黒光りする床に移る「床みどり」を眺め雅な景色を堪能しました。

実相院は、天皇家の血筋を継ぐ方々が、住職を務められていた格式高い寺院とのことです。

心地よい新緑のもと、数々の仏教寺院をめぐり、奥深い尊厳を身に感じ、御先祖様を念じ、その想いを胸に、満ち足りた三日間でした。

高橋団長、ご住職、寺庭さん、総代、参加者の皆様、大変お世話様でした。



ふたたび大本山妙心寺へ



非公開の開山堂で般若心経をお唱えしました



豪華絢爛な宝塚劇場のシャンデリアに心躍る！

新緑の京都と宝塚歌劇団観劇

団体参拝の思い出



庭園の美しさに劣らぬ美貌！？



何を思う？京都大原三千院のお地藏さま



舞子はんを囲んで、はいチーズどすえ～？



宝塚劇場の大階段前！気分はタカラジェンヌ？

残暑厳しいお盆の8月11日に盂蘭盆施餓鬼会の法要が行われました。当日は熱気溢れる本堂内に参加者130名が集まり、和尚様方15名による読経や行道が行われました。今年は、樹木葬をされたご家族の方々も多数参加され、法要後には、七ツ森を望んで樹木葬墓域で、読経。お参りを終えた遺族の方々は、木陰で涼みながら大地に眠る故人に想い寄せていました。



本堂内を住職様たちが読経して廻る（行道）



本堂内は、かつてないほどの満席！熱気！？



地獄絵図を背に卒塔婆を読み上げ盆供養



七ツ森の麓、読経中、手を合わせる参列者

お盆の法事

盂蘭盆施餓鬼会おごそかに

今後の行事予定

◎11月5日（土）

女性部研修

瑞巖寺松島の旅

◎12月10日（土）

成道会・大般若祈祷

忘年会

◎2月12日（日）予定

涅槃会

編集後記

役員改選があり、広報部会も新体制で初めて会報の紙面作りをするようになりました。

発足以来、広報を読んだ人が元気になるような記事や写真を掲載してきました。

お寺全体を活性化するため、次世代の育成は、青壮年部・女性部・檀信徒の皆様が協議を重ね、共にお寺をよりどころにし、会員相互の強いつながりが、お寺のこれまでの伝統を次の世代へ引き継げる様、少しでも会報が皆様のお役に立てば幸いです。

広報部 部長 小川弘吉
副部長 相澤敏晴
部員 佐藤 彰 早坂妙子
浅野澄江



発行

禪興寺花園会青壮年部・女性部 広報部
〒九八一・三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号 〇二二・三四五・二〇六三